

伝え合う力を高める国語科学習の創造 — 小6年国語科 「発見！わたしたちの地球」の実践を通して —

目 次

はじめに	· · · · 1
1 子供のかかわり合う授業をつくる	
(1) 国語科に求められるもの	
(2) 子供の実態と教師の願い	· · · · 2
(3) 新たな授業づくり	
ア 年間計画・評価計画の作成	
イ かかわり合う単元構成	
ウ 主体的な学びを支える環境づくり	· · · · 4
エ 子供たちによる授業進行	· · · · 5
オ 座席表の活用	
2 かかわり合いのある授業実践	· · · · 6
(1) 意欲化	
(2) 座席表による課題づくり	· · · · 7
(3) 一人調べと課題追究	· · · · 8
(4) 子供たちの進行による話合い	
ア 指導案	· · · · 9
イ 授業分析	· · · · 10
(5) 学びを表現につなげるトレーニング	· · · · 14
(6) ビデオづくりに挑戦	· · · · 15
3 成果と課題	· · · · 16
(1) 学びの出会いとビデオ制作	
(2) 座席表	
(3) 進行係・評価係	
おわりに	· · · · 17
資料1 国語科年間指導計画（第6学年1学期）	· · · · 18
資料2 児童座席表（研究授業資料）	· · · · 20

伝え合う力を高める国語科学習の創造 — 小6年国語科 「発見！わたしたちの地球」の実践を通して —

はじめに

今日の国語科教育においては、「伝え合う力」を育成する授業の創造が急務である。核家族化や地域での交流の不足など、子供たちを取り巻く環境は他者との関係を希薄なものにしており、言語を通して人とかかわる力の低下は見逃せない。また学校教育においても、個の能力を向上させることに目がいきがちで、仲間と共に学ぶことの意義を踏まえた授業がなかなか展開されていないのが現状ではないだろうか。

伝え合う力を付けていくためには、言語に関する知識や表現力を高めるだけでなく、まず相手の立場や気持ちを尊重する心を養っていかなくてはならない。そのためには、人とのかかわり方の指導を、授業の中に意図的に組み込んで、かかわり合うことの意義や楽しさを多く体験させていく必要があるだろう。自分の考えをもち、意見を互いに伝え合う力を育成することは、仲間と共に学ぼうとする意識を向上させることであり、それこそが生きて働くコミュニケーション能力につながると考える。

以上のことから、本研究では、共に学ぶ喜びや楽しさに焦点を当て、かかわり合いの生まれる授業づくりに取り組んだ。昨年度は、第5学年にて「インタビュー番組を作ろう」の単元を行った。インタビュー番組を作る活動を通して、相手の話を正確に受け止めながら豊かな対話をするために、グループでの学習を多く取り入れた。その結果、全体の前ではうまく話せない子も、グループの中で生き生きと話し合う姿が見られた。しかし、全体で意見を発言したり、かかわり合う姿はなかなか見られなかつた。また、インタビュー活動そのものには興味を示したもの、自己の言語活動を向上させようとする気持ちを高めることができなかった。そこで、本年度は、単元を構想するときに、子供たちの主体的に学ぼうとする意識を十分に培うことができるよう配慮して研究実践を行つた。

1 子供のかかわり合う授業をつくる

(1) 国語科に求められるもの

国語科の目標は、人間と人間との関係の中で、互いの立場や考え方を尊重しながら、言葉を通して適切に表現したり、理解したりする「伝え合う力」を育成することである。この「伝え合う力」は、人と人がかかわり合つて、豊かな生活を築くためには、欠かせない能力である。人間関係が希薄になつた今、国語科の役割はますます重要視され、すべての教科や学校生活全体を支える意味でも、指導の成果を上げることが期待されている。

以上のことから、「**国語科におけるかかわり合う**」授業とは、次の三つであると考えた。

- ア 自信をもって意見を発表したり、他者の話を真剣に聴いたりする授業
- イ 他者と主体的に意見交流をし、自分の見方・考え方を広げる授業
- ウ 相手や目的に応じて情報の発信・受信を実践する授業

(2) 子供の実態と教師の願い

子供たちが主体的に学んでいくためには、子供たちが今どんなことを必要とし、どんなことに興味

があるのか、一人一人の思いや考えを教師がとらえておく必要がある。子供を丁寧に見取っていくことで、教材との出会い方や、単元の展開がよりよく改善されるであろう。見取りの方法として、普段から教師が意識して、子供たちの記録物を累積してきた。日記では、出来事ではなくその日の思いを、授業では、感想や気付きをワークシートに書かせている。こうすることで子供たちが何に興味を示し、何につまずいているのかを把握することができる。書くことが苦手な子供の思いをとらえるために、個人記録もこまめにとってきた。教育相談や日ごろの会話からの見取りである。これらの累積資料を生かし、子供たちのニーズにあった教材や単元を仕組みたいと考えた。

本学級の子供は、自分の考えを発表したり、他者の考えを取り入れて思いを深めたりすることが苦手である。自分の思いをどう話してよいか自信のもてない子供も多い。そこで、目指す子供像を次のように考えた。

目指す子供像

生き生きと伝え合い、主体的に学び合う子供

<付けたい力>

- ◎自分の立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合うことができる
- ◎効果的な表現を工夫して、相手に分かりやすく話すことができる

(3) 新たな授業づくり

昨年度の実践から、国語科において伝え合う力の基礎・基本を培う過程において、意図的に子供たちがかかわり合おうとする計画づくり、場づくりをする必要があると考えた。そこで本年度は、次の5つの手立てを考えた。

ア 年間指導計画・評価計画の作成

伝え合う力を高めることは、話すこと・聞くことの領域の指導だけではない。読むことについては、文章を正しく読み取る活動を通して、ものの見方や考え方を広げるだけではなく、伝え合うための表現方法を学ぶことが必要となる。書くことについても、情報を整理し、筋道を立てて、相手や目的に合わせた文章を書く力を身に付けさせたい。そして、豊かな言語活動へと導くために確実な語彙の獲得も大切な学習である。そのために、発達段階や的確にとらえた子供たちの様子を考慮し、それぞれの領域が有機的にかみ合わさっていくように計画的に指導していきたい。そこで、国語科学習の年間指導計画を、指導内容と評価の観点を具体的に示し、指導の筋道と領域間のかかわりを考えながら立案した。(年間指導計画については、資料1 P.18, 19 にその一部を掲載)

イ かかわり合う単元構成

本実践では段階を四つに分けて学習計画を立てた。(次ページ参照)

単元構想図 「発見!わたしたちの地球」 (13時間完了)

付けたい力

- ・友達の意見から、自分の考えとの共通点や違いを見付け、付け足したり別の考えを述べたりすること。
- ・比喩的な表現や副詞、問い合わせの文などが効果的に使われていることに着目し、筆者のメッセージは何かを想像しながら読むこと。
- ・図書や資料、新聞記事などを必要に応じて選び、効果的に提示したり簡単な紹介文を作って発表したりすること。



(7) 「つかむ」段階

ここは、学びとの出会いになり、子供たちの学習に対する意欲化を図る。この単元で扱う教材文は「森へ」という説明文であるが、教材文に入る前に、本単元の学習課題をしっかりとつかませたい。そのために、朝の読書タイムを使って「自然」に関する図書や新聞記事に触れさせたり、自然の素晴らしさを伝えるVTRを視聴させたりする。また、教室内には、関連図書のコーナーや教師のお薦め本の紹介をカードで掲示する。こうした環境づくりから一人一人に自然保護に対する感想や願いをもたせたい。その上で、自分たちにできることはないかと考えさせることで、全校に伝える活動をしようという意欲がわいてくると考えた。具体的には、言語活動として**「自然の素晴らしさや大切さを伝えるビデオ番組」**を制作することを計画した。子供たちが「やってみたい」と思えるような、楽しい活動を計画したいと考えたからである。ビデオ番組の制作を見据えた子供たちは、よりよく相手に伝えるために必要なことを学習していこうとする気持ちをもつことができるであろう。

(イ) 教材文から学ぶ段階

自然の素晴らしさを伝える文章の例として教材文を取り上げ、擬人法や問い合わせの文などの効果的な用法、写真や資料の提示の仕方などを、ワークシートを使って学習する。そして、筆者が読み手に伝えようとしていることを、叙述に即して的確に読み取らせる。この主題の読み取りが本単元の核となる学習である。筆者の自然に対する思いを読み合い、自分たちも自然について真剣に考えてみようとする思いをもたせたい。また、筆者が何をどのように伝えようとしたのかを追究することで、文章に添えた写真の効果や巧みな表現について学ばせたい。

(ウ) 「トレーニング」の段階

これは、教材文を一つのモデルとして学んだ上での応用となる学習である。基礎・基本となる学習を経た子供たちが、いきなり発信という活動に向かうのではなく、身に付けた力を試すステップを踏むのである。教材文から一例を選び、副詞や比喩などの効果的な表現を取り入れたり、写真の提示の仕方をスピーチの形式で練習したりする。それをグループ内で発表させ、互いにアドバイスし合ったり、より効果のある表現を再考させたりしながら、学習内容の定着を図りたい。



グループでの話し合い

(エ) ビデオ番組づくりの段階

全校に伝えようというモチベーションを高め、伝える手法を身に付けた子供たちは、より具体的に方法を工夫することができるであろう。また、豊かな読書生活へとつなげる意味で、参考・引用した関連図書を紹介する内容を盛り込ませ、この単元学習の成就感や達成感を味わわせたいと考えた。

ウ 主体的な学びを支える環境づくり

昨年度は、「インタビューパン組を作ろう」の実践を行った。しかし、伝え合う力を高めるためにインタビューをしようという出会い方は、子供たちが主体的に「やってみたい」という意欲にはつながっていなかった。また、意欲をもたせるための、例えば教室掲示や日常活動とのリンクなど、側面からの支えも配慮していなかった。だから、子供が主体となった活動になりにくかったのだと思われる。

子供たちの学習意欲は、まず教材にどう向き合わせるかという学びとの出会いに大きく左右される。「教材文を教える」ことから「教材文で学ぶ」学習のスタイルを確立したい。そのためには、子供たちが「学びたい」、「できるようになりたい」と思える課題をもたせたい。そこで必要になるのが、

まず環境づくりである。子供たちはそれぞれ考えることもそのレベルも異なる。いきなり教材文を与えても、子供たちの思いは様々で、教師の願いは全体にはなかなか通じない。そこで、事前に共通体験をさせておく必要がある。例えば、読書タイムでテーマの似た本を読む、総合的な学習の時間や他教科、行事などで体験するなど、まず全員が同じスタートラインに立って考えられるようにしたい。それらの共通体験から感じたこと、気付いたことが、学びの出発点になる。それに合わせて、掲示物を作ったり、帯時間などを利用して関連する活動を取り入れたりして環境を整え、学習を側面から支えていくことで、子供たちの主体的な学びの姿勢へつなげていくことができると考える。

エ 子供たちによる授業進行

本学級の子供たちは、与えられたことは誠実に果たそうとする。自身の力を高めたいという気持ちをもって学習活動に臨む。しかし、学習の手順を考え、進んで学ぶことができない。それは、経験が少ないのである。何をどうやって学ぶのか、授業の中でどこまで活動してよいのかが分からぬのである。そのため、主体的に学ぶ喜びや互いの価値観を寄せ合うことの楽しさが感じられない。これでは、友達とかかわり合うことへの意欲は生まれない。

そこで、一つの試みとして、子供たちに学習活動の進行と評価を任せてはどうかと考えた。これは、教師主導を脱却し、自分たちで学習を練り上げる力を付けさせるためである。進行係は、授業を操る役を担う。もちろん一人の力では成し遂げられないため、教師と事前に打合せ、ベースとなる進行表を作成する。その進行表に基づいて、進度を考慮しながら活動に必要な時間や内容を指示する。評価係は、学習のめあてを示したり、授業のよかつた点を発表したりする。教師だけでなく、子供の目線で互いを評価し合うことは、「自分たちで学習をやり遂げよう」という意欲を喚起することにつながるであろう。二つの役割を子供に任せることで、係になった子供だけでなく、全体が自分たちの学びのスタイルをつくろうとする意識をもつことができる。うまくいかない点も多いだろうが、試行錯誤する中に子供たちのかかわり合いも生まれていくだろう。進行係と評価係を順番に担っていければ理想的である。

オ 座席表の活用

主体的な学習に向かわせるためには、子供たちが自分の考えを伝え合い、かかわり合っていく姿が大切になる。かかわり合うことで、仲間と共に学ぶことの楽しさや喜びが見いだせるからである。学習課題をつかむ場面や課題を追究する中途での見直しの場面、そして振り返りの場面などにおいて、子供たちがかかわり合う機会を設定することができる。

しかし、場を設定しただけでは十分に話し合うことができるのが本学級の実態である。発表することへの不安があるからである。「友達はどんな考えをもっているんだろう」「こんなことを言ってもいいのかな」「意見はいつ言えばいいんだろう」などである。こうした不安を解消する方法として、

＜進行係・評価係の役割＞

※事前に教師と打合せを行っておく。

- ① 課題の確認（進行係）
本時の課題を確認する。
- ② めあての確認（評価係）
課題に沿った学習のめあてを発表する。
- ③ 活動の指示（進行係）
- ④ 活動時間の配分と指示（進行係）
活動内容と時間を指示し、スムーズな授業進行を行う。
- ⑤ 話合いの司会、進行（進行係）
必要に応じて、話合いのルールや意見の述べ方を確認する。
- ⑥ 本時の評価（評価係）
めあてに対する評価を発表する。
- ⑦ まとめ
次時の学習予定を含める。

座席表を活用した話合いを取り入れた。各自の考え方や意見を略述した座席表を配付し、それを見ながら話合いをさせるのである。自分と似た意見があれば自信をもつたり、付け足して意見を述べたりすることで、友達の意見の中によい気付きや考えを発見することができるだろう。また、なかなか意見を発表できない子の考え方も吸い上げながら全体としての考え方を深めていくことができるであろう。また、あらかじめ記述させておくことで、話合いによって変容していく自分の考え方を確認することもできる。本実践では、教師が支援の手だけを明確にするとともに、子供たちの追究活動に役立てるための座席表を活用していく。

なお、本研究の実践では以下の2名を抽出し、その変容を追いかけて検証していくものとする。B3, D6等は、座席表を参考にして個々の子供を表している。

抽出児童の実態

B3… 学力は中位である。積極的な面がある割に、学習の場面ではあまり挙手・発言は見られない。人に見られて行動することに不安を感じやすく、神経質になる場面もある。この児童については、課題に対する不安を解消し、自信をもたせることができ、意欲の向上につながっていくととらえられる。

D6… 学力は上位である。物事に対して着実に対応しようとし、自主的に毎日の復習を行うなど学習にも前向きである。しかし、自分の考え方をまとめるのに時間がかかるので、話合い活動などではなかなか発言が見られない。この児童については、多様な価値観に気付かせ視野を広げると共に、発言することへの抵抗感を無くしていくことが必要だと考える。

2 かかわり合いのある授業実践

(1) 意欲化（第1, 2時）

第1時は自然に関する本やニュース記事などを持ち寄り、まず読んだ感想や気付いたことを発表させた。なかなか自分の感想を言えない子が多い。「自然」というキーワードでは、漠然としすぎて何を話してよいのか迷ったのだと思われる。しかし、子供たちはそれぞれに思いはもっていたようである。それは、事前にVTRを視聴したり、関連図書のコーナーを設けたり、掲示板にニュース記事をはっておいたりするなどの環境づくりをしておき、意識付けを行っておいたことが良かったと思われる。特に、読書週間を利用して自然に関する本を紹介したり、読書タイムを設定したことが大きな要因となった。こうした環境を整えたことで、感想や気付きをまとめる「小さいカード」には、自分の思いや考えを自分なりに書き記すことができていた。「小さいカード」とは、自分の意見や感想、考えなどを略述するための紙片で、これまでに子供たちは何度か様々な学習で使っている。このカードを座席表にはり付け、全員分を印刷して第2時に配付した。そして、再度話合いの場を設定した。子供たちには、自分と似た意見には○印を、違う意見には△印を、さらに、いいなあと思った意見には下線を引くように指示した。こういった具体的な指示を出し作業させることで、子供たち



「自然」に関連する図書コーナー

は自分の考えの相対的な位置付けを認識することが容易にできる。つまり、自分と同じような意見が多ければ安心して自分の考えを発表しようとすることができる。あるいは、対立する考えにも、「ちょっと違う考え方なんだけど…」と、相手の意見に絡ませて発言することもできる。この方法はたいへん効果的で、座席表を基にして話し合いをさせると、今度は子供たちが積極的に発言するようになった。「○○さんの意見に付け足しなんだけど…」「◇◇さんと同じで…」といった伝え合いに必要な話型もその都度指導しやすかった。



「自然」をテーマにした掲示板

抽出児童の意識（第2時の話し合いより）

D 6は、第1時の感想で、「自然とは守るべきもの」だという考えを書いていた。ここまでつくりと自分の意見を主張することは、ふだんはあまり見られない。意見を述べることがほとんどないからである。しかし、書き記したものがみんなの目に触れることで、第2時は多くの子がD 6の意見に絡ませて同調する意見を述べていた。D 6も、F 3の意見を取り上げて自己と同じ思いをもっていることを発言することができた。

B 3は、このときにD 6の意見に同調する意見を発言していた。自分の感想はあまり関連するものではなかったのだが、話し合いの様子から自己も同じ思いをもつようになったのである。これは、B 3の考えが仲間とのかかわり合いによって変容した部分である。

D 6の「自然は守るべき」の考えに全体が同調する雰囲気になったとき、B 1だけが異を唱えた。B 1は第1時に欠席したため、第2時の初めは様子をうかがっていたのである。そして、「自然は守るべき」に対して、こう発言した。「自然はきれいなの？汚くなっているの？」この言葉で、それまで活発だった話し合いがいったん途切れる。B 1の意見の真意がくみ取れなかつたようである。そこで、教師が出る。「そうか。汚くなった自然を守らんでもいいよね」

B 1の考えは、話し合いを深める起爆剤となった。ここから子供たちの発言の内容が変わってくる。「D 5さんの持ってきた沖縄の海の写真は、きれいだよね」「大野海岸は汚いよ」「守るんじゃなくて、きれいにしないといけない」「これ以上汚さないようにすればいいんじゃない」ここで、教師が出る。「みんなは何ができるの？」これに対して、海岸清掃をしようとか、ごみのポイ捨てをしないなどの意見が出る。再度、教師が出る。「これ、国語だよね。国語の勉強でできることを考えてみて」

これまでにはない深まりのある話し合いができた第2時であった。最後には、ビデオ番組を作って全校にメッセージを伝える活動をしようということになった。B 3はこの後の感想で、「たいへんだと思うけど見ている人に言いたいことを伝えたい」と書いている。この学習活動の目的をしっかりとつかみ、意欲をもつことができたと言えるだろう。

(2) 座席表による課題づくり（第3時）

第3時は、「自然の素晴らしさを伝える文章を読んでみよう」として、教材文となる「森へ」を通読させ、子供たちの初読の感想を座席表にまとめた。それを基に、各自の読みの課題を設定させるためである。前時で、伝える活動への意欲は高まっていたがいざ教材文を読んだ感想をまとめようとな

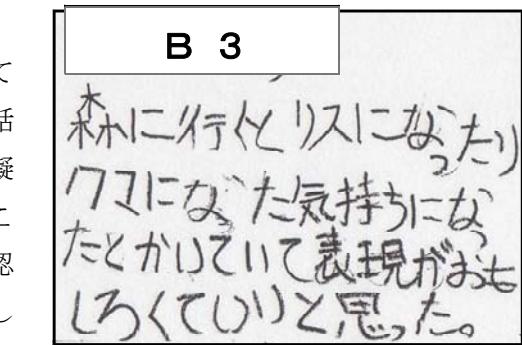
ると、筆者のメッセージに言及できる子は少ない。また、自然の素晴らしさを伝える工夫を見いだすこともできていない。であるからこそ、一人一人が課題をもって調べる学習が必要となってくるのである。

そのような中で、B 3は右のように初読の感想をまとめている。みんなの感想からどんな課題が見つかるだろうかと話し合わせる中で、B 3の感想を取り上げてみた。すると、擬人法を使っているところや問い合わせの文を多用しているところを指摘する子が出てきた。それらを教材文で一つずつ確認していくと、子供たちは筆者がなぜこのような表現を多用したのか疑問をもつようになってきた。「それが読みの課題になってくるね」と後押しすると、ようやく一人調べに向けて課題意識をもてるようになってきた。

一人調べはワークシートを使って行わせた。そして、擬人法などの表現のおもしろさや問い合わせの文のもつ効果、写真の提示の仕方などを読みの課題の例として、それぞれにワークシートを作成しておき、子供たちが選択できるように配慮した。これは、全員が読みの課題をしっかりとつことが無理であろうと判断したからである。特に下位の子供については、個別に対応して課題を選ばせた。

(3) 一人調べと課題追究（第4、5時）

第4・5時は、一人調べの時間を十分に取り、課題追究を行わせた。授業時間は支援の必要な子供に多くの時間を割いたため、全員の調べの様子を把握することはかなわなかったが、子供たちは非常に積極的に取り組む様子が見られた。その調べたことから、筆者の伝えたかったことについて探り、「小さいカード」に自分の意見をまとめさせた。



B 3の初読感想



一人調べの様子

抽出児童の意識（第4、5時より）

D 6は、「サケが森を作る」という部分に着目し、「人間が森を作らなくても、森が自分で自分を守っている」とまとめていた。これは、第1時の感想で「森は守るべき」と考えていたことから大きく考えを転換しているところである。そのことについてD 6に理由を聞くと、「読んでいくうちに、筆者は森をそっとしておこうと思っているように感じたから」と話す。それはよい気付きだねと話し、第6時にはみんなに紹介できるといいねとうながしておいた。

B 3は、「森のこわさは消えていた」に着目していた。比喩について調べていくうちに、この部分が引っかかったようだ。そして、「筆者は、森はこわいけど感動し、こわさは消えていく」と書いていた。言葉が足らなかつたので、補足説明をさせると、「この森には感動できるところがいっぱいあるから、こわさが感動に変わっていって消えてしまうと思う」と話す。「じゃあ、感動するということが伝えたかったんだね」と確認した。

(4) 子供たちの進行による話合い（第6時）

第6時は、これまでの各自の課題追究を基に、筆者の主張について話し合う学習を行った。

ア 指導案

第6学年2組

国語科学習指導案

平成18年6月28日 水曜日 第5時

指導者

1 単元
2 単元の目標

発見！わたしたちの地球

- (1) 自分の思いや考えを広げたり深めたりするために、進んで読書をしようとする。
- (2) 根拠を明らかにし、自分の考えをはっきりさせて話すことができる。
- (3) 比喩的な表現や問い合わせの文に注目して、その効果を味わって読むことができる。

3 単元構想図（省略）
4 本時の学習指導

- (1) 付けたい力

- 友達の意見の中心を聞き取り、共通点を見付けて自分の意見を付け足したり、違いを見付けて別の考えを述べたりすることができる。
- 教材文から筆者の思いを想像できる箇所を見付け、それを基に自分の考えを述べることができる。

（2）学習過程

段階	学習活動	時間	指導上の留意事項
つかむ	<p>1 前時の学習を振り返り、本時のねらいをつかむ。 (1) 前時の学習内容を想起する。</p> <p>(2) 本時の学習課題をつかむ。</p> <p>筆者が伝えたかったことを想像し、話し合おう。</p>	5	<ul style="list-style-type: none"> ○本単元は、主体的な学習を促すことをねらって進行と評価を子供の手に委ねる。本時についても、大まかな進行は子供によるものとする。 ○効果的な表現などについて学習したこと、本時の話し合いのめあてを評価係が簡潔に述べる。 ○進行係が学習課題を伝え、教師が課題を板書する。
追究する	<p>2 筆者の主張をさぐる。 (1) ワークシートを使って一人調べの内容を確認し、話し合いの準備をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆者の思いが伝わってくる文章表現などを見付ける。 ・その部分から受けるイメージや、筆者の思いを読み取る。 ・読み取ったことを友達に伝える準備や練習をする。 <p>(2) 一人調べの内容について、グループで話し合う。</p> <p>(3) 筆者の主張について、再度自分なりの考えをまとめる。</p>	25	<ul style="list-style-type: none"> ○前時までの一人調べの課題を基に、発表の準備をさせる。 ○机間指導し、つまずいている子供には、ワークシートの中でヒントになりそうな部分に線を引かせるなど具体的に助言を与える。 <p>(2) 一人調べの内容について、グループで話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○グループを作り、班長が進行役となるように指示する。 ○ワークシートにまとめた内容の発表をさせ、その後、筆者が伝えようとしていることについて話し合わせる。 ○グループで話し合った内容を基に、筆者の主張について自分の考えをまとめさせる。
深める	3 筆者の主張について話し合う。	40	<ul style="list-style-type: none"> ○話しやすい雰囲気にするため、机をコの字型にさせる。 ○主体的な活動となるように、相互指名で話し合わせる。 <p>評筆者の思いが表れている箇所を見付け、それを基に自分の考えを述べることができる。 (話し合いの観察)</p> <p>評友達の意見に自分の意見を付け足したり、違いを述べたりすることができる。 (話し合いの観察)</p>
まとめ	<p>4 学習のまとめをする。 (1) 本時の活動を振り返る。</p> <p>(2) 次時の学習予定を確認する。</p>	45	<ul style="list-style-type: none"> ○評価係に、本時の話し合いの様子から気付いたことやよかつたところを発表させる。 ○進行係に、次の学習予定を発表させ、教師が補足する。

イ 授業分析

本時は自信をもって話し合う発表の準備をする時間を確保した。まず、4人から6人のグループで自分が一人調べたことを話し合うのである。これにより、全員が発言することができた。また、前時までにワークシートを使ってまとめているので、少なくとも自分が教材文の中から着目した部分を基に筆者が伝えたかったことを自分の言葉で発言できた。実際のグループでの話合いにおいては、班長が進行役となり、それぞれの考えを順に発表することができていた。これまで、話合い活動を重ねてきたことで、発言の際の話型についてもおおむね理解し、実際に使っている子供がほとんどだったととらえている。しかし、実際の授業で難しいと感じたのは、グループでの活動となるとその詳細な活動の様子を教師がとらえにくいところである。本時の場合も、支援の必要な子供のグループを中心を見ていたので、他のグループで子供たちがどのようにかかわっていたのかは、授業内ではとらえていない。グループでの活動は、全員が学ぶ機会をつくるという点で大変有効な手段なので、それぞれの活動を教師がいかに把握するかは今後の課題となってくる。

グループでの話合いをした後、全体での話合いの場を設定した。以下は、その話合いの様子である。C 5 は進行係、D 5 は評価係である。

(ア) 進行係の効果

全体での話合いが始まるところでは、進行係が指示を出している。「だれか、きっかけになる意見を」という言葉により、自分たちで話し合おうとする気持ちをもつことができる。それが、G 1 (22) の発言の仕方につながっていることが分かる。「関連した人はいませんか」という、次の意見の促し方である。子供たちが主体となって話し合うためには、こうした何気ない言葉によるやりとりはとても大切になってくる。

実際には、G 1 が挙手するまでにしばらくの間があった。本学級では相互指名による話合いを指導してきている。この相互指名を行うことで、子供たちは主体となって話し合おうとする意識をもてるようになってきた。しかし、

それでも一部の子供による発言が多いことから普段なかなか発言できない子を優先していこうという気持ちも生まれてきていた。ここで間が空いたのはそのためである。進行係もその辺りを考えて、挙手が出るまで待っていた。これは、子供たちの成長の跡だと受け止めている。

また、進行係は、次の場面でも発言をしている。G 2 は、どの授業でも必ず一度は挙手・発言の見

No.	児童	活 動 の 記 録
21	C 5	はい、それでは話合いをします。だれか、きっかけになる意見をお願いします。 ○G 1 が挙手。進行係が指名する。
22	G 1	はい。ぼくは、54ページの11行目の、あつ、11行目を見てください。この「ぎっしりと」というところに着目しました。54ページの行目の「ぎっしりと」というところ、言葉に着目しました。「見渡す限りの木々や地面も岩も倒木もぎっしりと緑のこけにおおわれているのです」というところや、「そのまま歩き出しそうな気配でした」ということから、森の、森、ん、緑のこけがすき間なく埋めつくされ、今にも迫ってきてそういうことが分かります。このことから筆者は、森ってすごい力をもっているんだなあということを伝えたいんだと思います。関連した人はいませんか。

られる子供であり、「ぼくもB 4さんと同じで…」と、しっかり前の子供の意見と絡めて発言できている。しかし、この日はやや声が小さかったところを、進行係としては見逃さずに指摘できている。これは、進行係が本時の学習に對してたいへん高い意識で取り組んでいる姿だととらえられる。また、日ごろから誠実に学習しているG 2ならば、この指摘を前向きに受け止めてくれると判断しているところも見事であった。

No.	児童	活動の記録
30	G 2	はい。 <u>ぼくもB 4さんと同じで</u> 、61ページの14行目と15行目の、森はゆっくりと動いているに着目しました。筆者が伝えたいことは、森は人間の世界と違って、時間がゆっくり流れているから不思議だということを伝えたかったと思います。どうですか。
31	C 5	<u>えつと</u> 声のレベルは3です。 <u>声が少し小さいのでもう少し上げるようにしましょう</u>
32	G 2	関連はありませんか。どうですか。B 3さん。

(1) かかわり合いによる主体的な読み

B 5 (24) の発言を見てみると、「ちょっとぼくはちがったんだけど…」という話し方ができている。友達の意見と自分の意見がどんなかかわりがあるのか、立場を明確にして話せている。こうした話し方を定着させていくことで、仲間と共に学習していくのだという意識が根付いてくるであろう。また、ページ数を具体的に示したり、「ぼくは思ったんですけど…」と、自分の考えの部分をはっきりさせたりして話すところに、他の子供への伝え方の配慮を感じられる。

それが本時で顕著に出たのは、A 4 (25) の発言である。A 4は、これまで自分から発言する姿があまり見られなかった。以前に日記で「もっと積極的に意見を言えるようになりたい」と書いていたことがあり、気持ちの中では発言しようという意欲はもっていたのだが、なかなか手が挙げられずにいた子供である。それが、「わたしも…」という言い方をしたところから、自分の出るタイミングを待っていたことがうかがえる。発言のタイミングを待っていたところに、自分も主となってか

No.	児童	活動の記録
24	B 5	<u>ちょっとぼくはちがったんだけど</u> 、G 1さんの意見で、54ページを見てください。ぼくはG 1さんと同じところの、びっしりと緑のコケが、コケにおおわれているのですというところと、56ページを見てください。たがいにからみながら助け合い、森全体が、一つの生き物のように呼吸しているようでしたというところと、58ページを見てください。ここ10行目の、ああ、なんて強い力をもっているのでしょうかという、この、このようないろいろなところから、ぼくは思ったんですけど、筆者が伝えたいことは、このようなところから、森の生きていく、生きていくための力や森のすごさだと思います。で、さつきのように、地面にもびっしりとコケが生えているとかいうのは森のすごさで、たとえばクマのふんからキノコが生えているというのも森のすごさだし、この写真を見てください、この写真からもクマのすごさとかがよく伝わってきたりして、ぼくは筆者が、森のすごさが訴えたいと思います。みなさんはどう思いますか。えっと、関連する意見はありますか。A 4さん。
25	A 4	はい。えっと、 <u>わたしも</u> 60ページの2行目から3行目の、どうして今まで気付かなかつたのだろうというところで、森の生き物たちは、人間よりも強い力をもっていることが分かります。58ページの、10行目の、なんと強い力をもっているのでしょうかというところからも森が強い力をもっていることが分かります。関連してどうですか。

かわり合おうとする A 4 の意欲と成長を感じる。

こうして、互いにかかわり合いながら読みを深めようとする姿が、子供たちの意見の出し方に表れてくるようになる。

右の子供たちの言葉を拾っていくと、E 5 (34) 「ぼくはB 3さんと一緒に…」や、G 4 (35) 「E 5さんと一緒に少し関連しているんですけど」など、前に発言した子供の考えを参考にしながら、自分の意見を述べることができるようになっていることが分かる。それも、ただ同じだという意見の出し方ではなく、必ず自分の意見を最後にまとめて話している。このやりとりを続けていくことで、子供たちなりの読みが深まっていく。そして、直線的な深まりだけでなく、B 2のように視点を変えて多角的に物事を考えた意見を引き出すことにつながっている。注目すべきはB 2の「関連じゃないんだけど」と「例を挙げていくんですけど」で、他の子供が言わない言い方で発言することにより、この時点で更に読みを深めてみたいという学級の雰囲気が高まっている。

No.	児童	活動の記録
34	E 5	はい。ぼくはB 3さんと一緒に、厳しい自然ではわずかな栄養分も無駄にはならないのですというところで関連している意見なんんですけど、(中略) 栄養分も無駄にしないで生きてきたから、 <u>自然をもつと大切にしてほしい</u> と筆者は訴えていると思います。 関連している意見はありませんか。G 4さん。
35	G 4	はい。ぼくは <u>E 5さんと一緒に少し関連しているんですけど</u> 、ぼくの着目したところは、(中略) だから森は素晴らしいとぼくは思いました。関連した意見はありますか。
36	B 2	<u>関連じゃないんだけど、ちょっと…</u>
37	G 4	B 2さん。
38	B 2	はい。んっと、ぼくもみんなが今素晴らしいといふ言葉がたくさん出てきたんですけど、まあ、ぼくはその中から例、ぼくが思ったもので例を挙げていくんですけど、(後略)

この時点で更に読みを深めてみたいという学級の雰囲気が高まっている。

(ウ) 教師の出の分析

子供たちは、話合いが始まったところから自然の素晴らしさや偉大な力に関連する意見を続けていく。これは、教師の予想通りだったが、実はもっと早い段階で、第1時で話題になった「自然を守る」という考えが出るだろうと予想していた。しかし、ようやく出たのはE 5 (34) の発言になってからであった。筆者が自然の素晴らしさを伝えているのか、自然を保護する考えがあったのかで考えを深めさせたいと思っていたが、随分時間を経てしまった。また、続いたG 4 (35) の意見がまた「自然は素晴らしい」に戻ってしまっている。教師が出るタイミングを逸してしまった場面である。ここでの判断はとても難しいと感じる。せっかく子供たちの話合いが活発になり、できるだけ多くの子に発言させたいと思うところでもあるからである。教師が出るときは、当然話合いの質を深めることになる。そうなれば、発言できない子供にはより負担と不安が大きくなる。また、出過ぎることで進行係の役割を奪いかねない。そのあたりのバランスや駆け引きが、教師の授業力になってくると思う。座席表から、E 5と同じように「自然を守る」という意見をF 1やF 2なども書いていることが分かる。今回は、もう少し早い段階で、「自然を守るという考え方の人もいるようだね」と切



話し合いの様子

り込むとよかったですのではないかと考える。

教師の出るタイミングは遅かったが、D 5 (41) が流れを止めずに発言できている。しかも、注目すべきは、グループでの話合いに出たD 6 の意見を引き合いにして自論に結び付けているところである。友達の意見を自分の考えと大きく関連させている。こうした発言が自然にできていくことから、かかわり合いが生まれ、主体的な学びへと高まっていくのである。続いたB 1 の意見も同様である。

(I) 抽出児の変容

D 6 の様子

グループで話し合う活動を取り入れたことは、D 6 にとってよいステップとなっていたことが、第 6 時の感想から分かる。実際にD 6 が自分の考えを出せたことが、D 5 (41) の発言につながっている。

しかし、全体の話合いでは、D 6 は発言することができなかつた。D 5 (41) の発言を受けて、そのタイミングを教師が的確にとらえて、D 6 の発言を促すべきであった。時間が延びており、それが十分にできなかつた。D 6 の考えが、更に深い読みにつなげることができたのではないかというのが大きな反省点として残る。

グループで発表の練習をしたら、自信がついた。

D 6 の授業感想

B 3 の様子

いつもは自分から進んで挙手することはない。それが、No.33で発言している。この発言に至った要因として、これまでの学習の中で、表現に着目したところを友達に認められたこと、前時に「感動」という自分なりのキーワードで筆者の気持ちをとらえられたこと、そして友達の積極的な発言に触発されたことが考えられるだろう。ここから、子供たちが進んで言葉を交わし、かかわり合いが生まれる授業には、互いの認め合いと確かな学習が必要なのだということが分かる。

No.	児童	活動の記録
39	T	~ちょっと、先生、割って入っていい~あの、ちょっとまとめてみたんだけど、素晴らしいとか感動するという言葉が出てきたね。すごいという言葉を言った人もいるよね。それと、えっと、E 5くん、ね。ほかにもいるよね。自然を大切にとか、守ってとか、意見が違うところじゃないかなと思うんだけど。筆者は素晴らしいということ、を伝えたい、純粋にそれだけを伝えるのか、ううん、自然を大切にという間でのメッセージまで含まれているのか、その辺りはなんかこう、話合いになつていかないかな。(略)
40	C 5	D 5 さん。
41	D 5	(前略) やっぱり森は人間は入ってほしくなくて、さっきの、えっとグループの話合いでもD 6 さんの意見に、えっと、サケが森を作るっていうので、森は自分で森を作っているから、もう手をつけなくていいから、守る面では人間はそういう思っていることで森は手をつけないで、森は森の力で作っていったほうが、ぼくはいいんじゃないかなと思います。長くなつてすいません。

No.	児童	活動の記録
33	B 3	ぼくは、筆者は森の、森は感動するところだと言っています。わけは、57ページの14と15行目に、わずかな栄養も無駄にしないというのがあるんですけど、栄養を無駄にしないという言葉は、感動するから森は感動するところだと思います。関連する意見はありますか。

(5) 学びを表現につなげるトレーニング（第7～9時）

第6時までに読み取りで学んだことを、表現する力として身に付けさせるために、第7時から第9時でトレーニングの場を設定した。ワークシートを使って、「森へ」で紹介されているものの中から一場面を選ばせ、写真を提示しながらスピーチする学習活動である。

B 3 の様子

B 3 は文章を書くことが苦手である。自分でもそれを意識しているので、初めからワークシートを使わず、まずはノートにスピーチ原稿を書き始めた。選んだのは、クジラの尾びれの写真。しばらく迷ったあと、初めに問い合わせを入れようと考え、「みなさんは、クジラと聞くと何を思いますか」と書いた。そこで、「まず問い合わせから入ったところはいいね」と認め、自分はどんな様子を紹介したいのか、写真是どのタイミングで見せたらよいかなどを助言した。そして、B 3 がワークシートに書いた原稿が上のものである。写真の提示の仕方や、様子を詳しく伝えるための表現も工夫している。自分でもうまくできた手応えがあったようで、グループでのスピーチも堂々と行っていた。自己評価からは、特に問い合わせの文から入るところを意識していたことがうかがえる。

D 6 の様子

D 6 もノートに幾つかの文章を書き、整理しながらワークシートにスピーチ原稿を書いた。ここでは教材文にある表現を使ってもよいことになっていたが、D 6 は自分なりの表現を入れたいと考えたようで、クマがサケを捕らえている様子をどのように表現したらよいかで悩んでいた。そして右のようにスピーチ原稿を書き上げた。人前で話すことは苦手だが、グループでは分かりやすくスピーチしようとする姿が見ら

B3のワークシート

D 6のワークシート

他の子供も、学んできたことを取り入れて原稿を書くことができていた。また、グループで発表したり助言し合ったりする場面を作ることで意欲的に活動できた。実際には時間がとれなかったのだが、よいスピーチを全体で紹介し合う場面があってもよかつた。また、次のビデオづくりに効果的につなぐために、カメラマンや聞き手などの役割をつくってスピーチするなどの工夫があつてもよかつた。しかし、この「トレーニング」の段階をつくったことで、第6時までに学んだことを子供たちが「自分のものにする」ことができたと考える。

(6) ビデオづくりに挑戦（第10～13時）

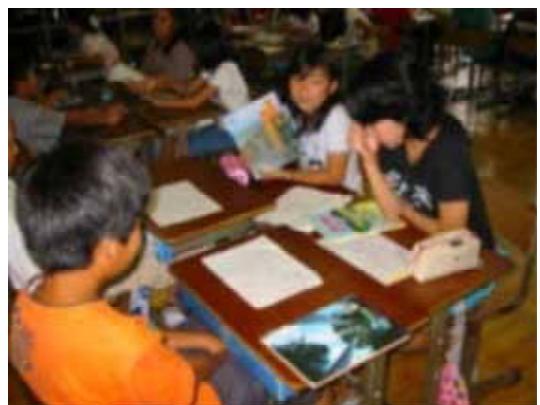
4時間を使って、子供たちはビデオ番組の制作に取りかかった。まずは全体でどのような内容のものにするとよいか話し合った。そこで確認したことは、伝えたいことが分かる短い時間の番組にすること、一人一人が思いや願いを発表すること、グループで内容を工夫することである。そこに、教師の思いとして、参考にしたり引用したりした図書を必ず紹介することを付け加えた。

次に具体的な番組づくりについてグループで話し合った。

グループの創意工夫が生かされるよう、教師は話合いの様子や決まったことを逐一確認し、助言を与えてから台本づくりを行わせた。台本の完成までには実際に授業時間では足らず、放課や授業後も活動したグループが多かったが、どのグループも教師の指示ではなく、自分たちで時間を見付けて活動していた。そこに、これまでの学習態度とは明らかに違う、自主的な活動の様子があった。これも、主体的な学びとグループで築いた人間関係が大きく作用している結果だと思われる。

右は、B3が番組の中で本の紹介をするための原稿である。自分の原稿の中に、問い合わせの文を初めに取り入れたり、資料を提示するための言葉を入れたりと、「トレーニング」の段階で学習してきたことが身に付いていることが分かる。ビデオづくりという学んだことを生かす活動があることによって、子供たちはその学びの手応えを感じることができたのだと思う。

数回のリハーサルを経て、ビデオで撮影し、学級で試聴会を開いた。本単元の活動を振り返った子供たちの感想については、次項にまとめる。



グループでのスピーチ練習



番組内容の打合せ

おわり	なか	はじめ	組み立て
さあ、では、どうやってこのきびしき環境 の中動物は生きていると思いまく? みるを見てください!	さあ、キッズが道だ足あとで見て見る かりません自分のあがつけてあまきシ ーだけではありません野は動物をがさ であ自分のとどけられしむらがりう生でるるために必死になりて けられしむらがりう生でる動物たちをかわ そう思せよ。二分動物たちのうえ	中動物は生きていると思いまく? みるを見てください!	○ビデオ番組の内容を考えよう。 ○自分の組み立てよう。 ○自分の本の紹介の仕方を考えよう。 ○グループから発信したいメッセージ にまいがけてるのは

B3の原稿より

3 成果と課題

(1) 学びとの出会いとビデオ制作

本単元を振り返って、子供たちは右のような感想を寄せている。

ビデオ番組を使ってメッセージを伝えるという活動は、子供たちにとって「やってみたい」という意欲と、「どうやって作ればいいかな」と課題解決に向けて主体的に取り組もうとする姿勢をもちやすいものであったことが分かる。つまり、子供たちに課題を与えるときには、楽しく活動できる平易なもの、やり遂げたときの達成感が見通せるものを考えられるように仕掛けることが大切なのだと言えるだろう。課題の解決に向けて、仲間と話合い具体的な学習活動を気付いていくことは、本学級ではまだまだ訓練が必要だが、少なくとも「自分たちが主役で」という意識はもつことができたよう思う。

A 4	F 1
<p>ビデオ番組作りは楽しかったです。 F 2 んのじゅへり方や速さや声のレベルがよかったです。よく伝わってきました。まねしたいです。</p>	<p>相手に伝えることがむずかしかったけど、D 6 さんや C 5 さんは相手に伝えようと努力がかったからわかりやすかった。C 5 持ちが</p>
E 5	B 3
<p>ビデオ番組づくりはとても楽しかったし協力できたのよかったです。B 3 さんの言話し方は、説得力がありやすかったです。</p>	

単元の感想

(2) 座席表

座席表を話合いの場で活用したことは、最も効果の大きかった手法であった。これまで、なかなか話合いに参加できない子が、単元を通してみれば随分発言の回数やその内容に変化が見られたからである。友達の考え方や思いが分かることで、発言への自信と、相手の意見を尊重する態度が生まれるのだろう。そこから学級全体が一体となって課題解決に向かっていく連帶意識となり、仲間とかかわり合い、学ぶ喜びにつながっていくものだととらえることができる。本単元だけでは、変容の見られた子供は一部であるが、この手立てを継続していくことで裾野を広げていきたい。

(3) 進行係・評価係

初めての試みであったが、手応えは十分であった。

進行係も評価係も、今回は子供たちと相談して、いわゆる「できる子」から選んだ。まずは、「自分たちで学習をリードしていくんだ」という成就感をもたせたかったからである。この手立ても、他教科などでも応用しながら継続していくことで、主体的な学習へつなげていきたい。

C 5	D 5
<p>進行係をやってみて難しそうだったけど、思ったより楽しかったこれなら自分たちで進められる授業がやりたい。</p>	<p>自分たちで進める授業は自分たちでやかじかれてるの授業のはばかに気が感じた。</p>

進行係と評価係の感想

おわりに

本研究で最も考えさせられたのは、教師の支援の在り方であった。子供の意識を揺さぶる教師の出ができていたか、個のつぶやきや気付きを的確にとらえていたか、相互のかかわりを場に即して広げたり深めたりすることができたかなどである。授業を構築できないから、学びが表面的で薄っぺらなものになってしまう。そして、子供は消極的で受け身の態度になってしまうのではないか。だからこそ、学習の課題に楽しさがあれば、追究の過程や結果に喜びや達成感があれば、子供たちは主体的になれるし、学びの対象を教師から仲間へと広げられると考えるのである。

子供たちはよく「放課は楽しい」と口にする。理由を尋ねると「だって、友達といっしょにいると楽しいから」と返ってくる。この言葉こそ、授業の場面でも大切にしたいと思う。「友達と一緒に『学んで』いると楽しい」という言葉が生まれてくるように、一つ一つの授業をつくり上げていきたいと考える。

国語科 教育目標					指導事項												評価の観点の趣旨						
学年目標					第5学年及び第6学年の評価の観点の趣旨																		
第5学年及び第6学年					国語への関心・意欲・態度																		
(1) 目的や意図に応じ、考えた事や伝えたい事などを的確に話すことや相手の意図をつかみながら聞くことができるようになるとともに、計画的に話し合うとする態度を育てる。					A 話すこと・聞くこと	ア 考えた事や自分の意図が分かるように話の組立てを工夫しながら、目的や場に応じた適切な言葉遣いで話すこと。 イ 話し手の意図を考えながら話の内容を聞くこと。 ウ 自分の立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合うこと。	第5学年及び第6学年の評価の観点の趣旨												国語への関心・意欲・態度				
(2) 目的や意図に応じ、考えた事などを筋道を立てて文章に書くことができるようになるとともに、効果的に表現しようとする態度を育てる。					B 書くこと	ア 目的や意図に応じて、自分の考えを効果的に書くこと。 イ 全体を見通して、書く必要のある事柄を整理すること。 ウ 自分の考えを明確に表現するため、文章全体の組立ての効果を考えること。	国語に対する関心をもち、計画的に話し合ったり、適切に書いたり、幅広く読書したりしようとする。												話す・聞く能力				
(3) 目的に応じ、内容や要旨を把握しながら読むができるようになるとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。					C 読むこと	ア 自分の考えを広げたり深めたりするために、必要な図書資料を選んで読むこと。 イ 目的や意図などに応じて、文章の内容を的確に押さえながら要旨をとらえること。 ウ 登場人物の心情や場面についての描写など、優れた叙述を味わいながら読むこと。 エ 書かれている内容について事象と感想、意見の関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読むこと。 オ 必要な情報を得るために、効果的な読み方を工夫すること。	第5学年及び第6学年の評価の観点の趣旨												話す・聞く能力				
言語事項					ア 文字に関する事項	(ア) 第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。 また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書くようにすること。	国語への関心・意欲・態度												話す・聞く能力				
イ 表記に関する事項					(イ) 仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。	国語への関心・意欲・態度												話す・聞く能力					
ウ 語句に関する事項					(ア) 送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。	国語への関心・意欲・態度												話す・聞く能力					
エ 文語調の文章に関する事項					(ア) 語句に関する類別の理解を深めること。 (イ) 語句の構成、変化などについての理解を深め、また、語句の由来などに関心をもつこと。 (ウ) 表現したり理解したりするために必要な語句について、辞書を利用して調べる習慣を付けること。 (エ) 語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもつこと。	国語への関心・意欲・態度												話す・聞く能力					
オ 文及び文章の構成に関する事項					(ア) 易しい文語調の文章を音読し、文語の調子に親しむこと。	国語への関心・意欲・態度												話す・聞く能力					
カ 言葉遣いに関する事項					(ア) 文や文章にはいろいろな構成があることについて理解すること。	国語への関心・意欲・態度												話す・聞く能力					
(ア) 日常よく使われる敬語の使い方に慣れること。					(イ) 共通語と方言との違いを理解し、また、必要に応じて共通語で話すこと。	国語への関心・意欲・態度												話す・聞く能力					

学期	月	単元名	教材名	時数	対応する指導内容												対応する評価の観点と評価規準							
					A 話・聞く			B 書くこと			C 読むこと			言語事項						国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
1	4	続けてみよう	続けてみよう	1	○	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	エ	オ	ア	イ	ウ	エ	オ	ア	イ	ウ	エ	オ	力
		本に親しみ、自分と対話しよう	カレーライス	7										○										
		漢字の形と音・意味	漢字の形と音・意味	2												○	○							
	5	文章を読んで、自分の考えをもとう	生き物はつながりの中に	6											○	○				○				

学期	月	單元名	教材名	時数	対応する指導内容												対応する評価の観点と評価規準												
					A 話す・聞く		B 書くこと			C 読むこと			言語事項						国語への 関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての 知識・理解・技能						
					ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	エ	オ	ア	イ	ウ	エ	オ	力	ア	イ	ア	イ	ウ	エ	ア	ア	ア	イ	
1	5	漢字の広場①	漢字の広場①	2															◎									既習漢字を、日常生活で正しく使っていこうとする気持ちをもつ。(観察)	第5学年で習った漢字を、文章の中で正しく書くことができる。(ノート)
		言葉のひびきを味わおう	短歌・俳句の世界	4											◎					◎								好きな短歌・俳句を見付けて視写したり、自分で作ったりしようとする。(観察)	五七(七五)調のリズムや文語の語感に気を付けて朗読できる。(観察)
		暮らしの中の言葉	暮らしの中の言葉	2															○	○							進んで辞典を使って調べたり、ことわざや四字熟語を集めたりしようとする。(観察・ノート)	ことわざや四字熟語を使って短文を作ることができる。(観察・ノート)	
6	6	相手や目的に合わせて書こう	ガイドブックを作ろう よりよい文章に	10			◎	◎	○	○																	修学旅行で見聞したことを生かしてガイドブックを作り、積極的に紹介していくこうとする。(観察・ガイドブック)	全体の構成を考え、必要なことを順序よく紹介できるように目次や内容を整理して作ることができる。(ガイドブック) パンフレットや写真を効果的に使い、分かりやすい言葉で紹介文を書くことができる。(ガイドブック)	
		漢字の広場②	漢字の広場②	2												◎											既習漢字を、日常生活で正しく使っていこうとする気持ちをもつ。(観察)	第5学年で習った漢字を、文章の中で正しく書くことができる。(ノート)	
		相手の意図を聞き取り、自分の主張を伝えよう	学級討論会をしよう	6		○	○																				討論会の形式に興味をもち、話し合うことに意欲をもつ。(観察)	考えを先に、理由を後に話す話型を用いて、立場をはっきりさせて説得力のある発言をすることができる。(討論会シート・観察)	
7	7	発見！わたしたちの地球	森へ 本は友達	13	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○					○							自然に対する自分の考えをもち、積極的に全校にメッセージを伝えようとする。(観察)	根拠を明らかにして、自分の考えを述べることができる。(観察) 友達の意見に付け足したり違いを述べたりすることができる。(観察)	友達の意見や資料から得た情報を取り入れ、自分の意見を効果的に書くことができる。(ワークシート)	自然に関する考えを広げるために、進んで必要な図書を読むことができる。(観察) 比喩などの表現の効果を理解することができる。(ワークシート)
		漢字の広場③	漢字の広場③	2												◎										既習漢字を、日常生活で正しく使っていこうとする気持ちをもつ。(観察)	第5学年で習った漢字を、文章の中で正しく書くことができる。(ノート)		

資料2 第6時の子供用資料(座席表)

<p>①森全体が1つの生き物のように呼吸していました。に着目しました。</p> <p>②筆者は森も生物なんだよと伝えたいんだと思います。</p> <p>①そして幹をなでてみました。これで、やさしい気持ちになりました。どちらもこうだの」と言うことを伝えさせたいと思います。</p>	<p>①森林ははやく大きくなると筆者は考へています。</p> <p>②森林ははやく大きくなると筆者は考へています。</p> <p>①森のこわさはあまり大きくないが、②森林はよく見えます。筆者は森は怖いけど、人間には怖くない</p> <p>②森林のこわさは、ほんの少しこわい感じ動き、怖さは少なくて、人間には怖くない。自分は、といだい</p>	<p>② P55の写真</p> <p>①写真P55 ②森林はやぐり)とついでいる</p> <p>①森林はゆく)と動かして、森林の成長のすごさとすれば感じます。</p>	<p>②ほんの少しこわい感じ動き、怖さは少なくて、人間には怖くない。自分は、といだい</p>	<p>①写真P55 ②森林はやぐり)とついでいる</p> <p>①「竹が森を作ると、森林が生きる。」</p> <p>②人間が森を守らしくても、森が自分で自分を守っていることだ。</p>	<p>①年老いて死んでしまった倒木が、新しい木を育てた。②木が死んでまた新しい木が下から死んで、森のすこしさ</p>	<p>①竹が森を作ると、森林が生きる。自然はいいなと思いました。 ②金鏡の木と木の西。</p> <p>①竹が森を作ると、森林が生きる。自然はいいなと思いました。 ②木が足のよしに元氣を出します。木が生きています。</p>	<p>①竹が森を作ると、森林が生きる。 ②木が足のよしに元氣を出します。木が生きています。</p> <p>①竹が森を作ると、森林が生きる。 ②木が足のよしに元氣を出します。木が生きています。</p>
<p>①6ヶ月のゆきり、というところ。 ②筆者は森はゆっくり成長しているので、人間が手を出しても、やしたりもいけないといふ事を伝えたい。</p> <p>①森林ははやく大きくなると筆者は考へています。</p> <p>②森林もさしくわかるから、森林も美しい森を保護していきたい。</p>	<p>①森林ははやく大きくなると筆者は考へています。</p> <p>②森林もさしくわかるから、森林も美しい森を保護していきたい。</p>	<p>①森林ははやく大きくなると筆者は考へています。</p> <p>②森林もさしくわかるから、森林も美しい森を保護していきたい。</p>	<p>①森林ははやく大きくなると筆者は考へています。</p> <p>②森林もさしくわかるから、森林も美しい森を保護していきたい。</p>	<p>①森林ははやく大きくなると筆者は考へています。</p> <p>②森林もさしくわかるから、森林も美しい森を保護していきたい。</p>	<p>①森林ははやく大きくなると筆者は考へています。</p> <p>②森林もさしくわかるから、森林も美しい森を保護していきたい。</p>	<p>①森林ははやく大きくなると筆者は考へています。</p> <p>②森林もさしくわかるから、森林も美しい森を保護していきたい。</p>	<p>①森林ははやく大きくなると筆者は考へています。</p> <p>②森林もさしくわかるから、森林も美しい森を保護していきたい。</p>
<p>①年老いて死んでしまった倒木が、新しい木を育てた。②木が死んでまた新しい木が下から死んで、森のすこしさ</p>	<p>①竹が森を作ると、森林が生きる。自然はいいなと思いました。 ②木が足のよしに元氣を出します。木が生きています。</p>	<p>①竹が森を作ると、森林が生きる。自然はいいなと思いました。 ②木が足のよしに元氣を出します。木が生きています。</p>	<p>①竹が森を作ると、森林が生きる。自然はいいなと思いました。 ②木が足のよしに元氣を出します。木が生きています。</p>	<p>①竹が森を作ると、森林が生きる。自然はいいなと思いました。 ②木が足のよしに元氣を出します。木が生きています。</p>	<p>①竹が森を作ると、森林が生きる。自然はいいなと思いました。 ②木が足のよしに元氣を出します。木が生きています。</p>	<p>①竹が森を作ると、森林が生きる。自然はいいなと思いました。 ②木が足のよしに元氣を出します。木が生きています。</p>	<p>①竹が森を作ると、森林が生きる。自然はいいなと思いました。 ②木が足のよしに元氣を出します。木が生きています。</p>